

(別紙様式)

(A3判横)

# 令和4年度 学校自己評価システムシート (県立入間向陽高等学校)

目指す学校像	「ひたむきに、おおらかに、たくましく」未来を生き抜く心身ともに健全な若人の育成
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>授業改善及び学習習慣の確立を通じた学習意欲の向上</li> <li>行事等の実践を通じた主権者意識の育成及び自律的・基本的生活習慣の確立</li> <li>生徒一人一人に即した進路選択とその実現</li> <li>保護者参加と中学校・地域との連携強化による協力支援体制の確立</li> </ol>
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者6名 生徒名 29名 事務局(教職員7名)
-----	----------------------------------

学校自己評価							学校関係者評価		
年度目標			年度評価 (1月12日現在)				実施日 令和5年2月14日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策		
1	<p>・生徒達の授業態度は大変落ち着いており、大部分の生徒が集中して取り組んでいる。生徒達は、わかりやすい授業と興味を強く引く授業を望んでおり、教職員には、これらの現状や要望を踏まえ、生徒が意欲的・主体的に参加できる授業作りと工夫が望まれる。また、大学進学をはじめとする生徒の多様な進路希望を念頭に置き、それらの土台となる基礎的な知識や思考力、自ら課題を発見し解決する能力を養成していく必要がある。</p> <p>・定期考査前の学習には、大半の生徒がよく取り組んでいるが、予習復習等の日常的な学習習慣が身につけていない生徒も多い。現状を踏まえ、教職員は、引き続き生徒の学習習慣確立のための方策を模索し、実行していく必要がある。</p> <p>・生徒の進路意識は、高まりつつある。特に、科目選択については、将来の進路希望と結び付けながら、学習意欲の向上につなげていくことが大切である。</p>	<p>基礎的・基本的事項を重視し深い学びを促す授業改善の取り組み</p> <p>・生徒アンケートの結果を踏まえ、より一層興味関心を引き出す授業を創意工夫する。また、生徒達が自ら考え、対話的に深い学びを目指すとともに、課題解決能力が身につく授業を模索していく。</p> <p>・引き続き「初期学習指導」を実施し、各教科の学習方法を具体的に説明する。授業での課題の提示と評価、生徒自身による定期考査の振り返り等を行い、自己課題の発見を促す。</p> <p>・1学年は観点別評価が導入されるため、より丁寧に初期学習指導を行う。学校全体で生徒達の日常的な家庭学習の習慣化を、ICTの活用も取り入れて進めていく。</p> <p>・科目選択に関して生徒達が自らの将来の進路と結び付けられるように科目選択ガイダンスを行う。進路分野別ガイダンス・進路HRなど進路指導部と連携して動機付けを大切に、生徒の学習意欲向上につなげていく。</p>	<p>・生徒アンケートの分析によって生徒達の実情を把握し、授業改善への課題を明確にして、主体的・対話的に深い学びを目指した様々な創意工夫と実践に取り組むことができたか。</p> <p>・「初期学習指導」により、学習への動機付けができたか。また、課題や定期考査等の評価と生徒自身による学習の振り返りにより、日常的な家庭学習の習慣化を進めることができたか。</p> <p>・科目選択にあたり、生徒達が自分の将来の進路を自覚しながら学習意欲を高めていけるような適切な情報提供と指導を行うことができたか。</p>	<p>・「向陽高校を考えるための生徒要望アンケート」の結果より、授業の理解度については回答の68%でとても理解できる、まあまあ理解できると回答しており、おおむね良好と考えられる。また、さまざまなスタイルのアクティブ・ラーニングや、来年度のタブレット全員購入を見据えたICTを積極的に活用した授業が多く展開されており、積極的な授業改善が行われている。</p> <p>・「入学生アンケート」の「入学後に力を入れたいこと」では、4つの質問項目のうち「学習」が最も高い。これと相俟って、新入生に対する「初期学習指導」により、高校での学習の取組方法等の説明を通じて十分な動機付けが図られた。</p> <p>・1・2年生に対する科目選択ガイダンス等により、多くの生徒が自分の進路を意識しながら学習に取り組んでいる。一方で「生徒アンケート」の科目選択理由を問う質問では、苦手科目を選択したくない・単位が簡単に取れそうという理由で選択している生徒が増加しており、一層の指導が必要である。</p>	B	<p>・生徒の意識・実態を把握しながら生徒の主体的な授業参加と学習習慣の確立に向けて、主体的・対話的に深い学びを目指した授業の模索を通じ、さらに一層の努力が望まれる。また、観点別評価導入にあたっての問題点や課題を精査し、次年度につなげていく必要がある。加えて、タブレットを利用した授業に関してのさらなる研修や教材開発研究とノウハウの蓄積も目指していく。</p> <p>・保護者アンケートでは、68%の保護者が学習習慣に関してまだまだ不十分と回答しており、初期学習の効果を持続すべく、家庭学習習慣の定着を一層図るような指導の充実が必要である。</p> <p>・引き続き進路指導部とタイアップしながら、科目選択ガイダンス等を通じて進路意識と学習意欲を結び付けていくような指導が必要である。</p>			
2	<p>・基本的な生活習慣が身につけている生徒が多く、落ち着いた学校生活を送っている。</p> <p>・SNSの使用について、研修会等を実施することで問題の拡大を防いできているが、スマホ使用のマナーを含め、引き続き理解を深め、トラブル防止に取り組んでいく必要がある。</p> <p>・今年度から女子のスラックス着用可とした。生徒にとってはより自由度が増したわけであるが、整容指導継続の必要はあると思われる。</p>	<p>生徒一人一人の個性を図る</p> <p>・教員間の共通理解と協力体制の確立(特に整容指導・挨拶励行・時間厳守について)</p> <p>・朝の登校指導、授業開始時の巡回の継続</p> <p>・定期的な整容指導の実施</p> <p>・社会生活におけるマナー向上指導の一つとして情報モラル研修会・非行防止研修会を企画し、自己の課題として考えさせる。</p>	<p>・教員間の共通理解と協力体制の確立(特に整容指導・挨拶励行・時間厳守について)</p> <p>・朝の登校指導、授業開始時の巡回の継続</p> <p>・朝の登校指導、授業開始時の巡回の継続</p> <p>・定期的な整容指導の実施</p> <p>・社会生活におけるマナー向上指導の一つとして情報モラル研修会・非行防止研修会を企画し、自己の課題として考えさせる。</p>	<p>・生徒の情報全体を共有するようにつとめ、生徒指導部・担任の連携を深めた。</p> <p>・日々の校門指導、授業開始時の巡回指導は今年度も全教員の協力を得て継続することができた。</p> <p>・各学期のはじめに、学年ごとに整容指導をおこなった。今年度から女子のスラックスが導入され着用する生徒も見られた。</p> <p>・情報モラル講習会は、昨年度に継続してコミュニケーションツールとその使い方についての内容で行い、日頃のクラスメイトとの交流のあり方を考える契機になった。</p> <p>・非行防止教室は、日頃の生活習慣に目を向けられるような内容に心がけた。</p> <p>・1月実施の「向陽高校をよくする会」での意見交換を通じて生徒会からも自身の生活習慣の問題として投げかけ、日頃の行動の見直しを促すようにしていきたい。</p>	<p>・原案づくり、会議やリハーサル運営など生徒会本部を中心として、全校生徒が企画の段階から行事に携われるように実行した。コロナ禍という困難な条件の中であるが可能な限り感染拡大防止と行事の両立をめざして取組みを進め、さまざまな場面でコロナ以前に近づくことができた。その際、生徒会本部は、中央委員会、各部活動、有志等と連携し、その活動を広げることができた。</p> <p>・生徒会組織の活動が全校生徒の「参加・参画」を視野に入れて、原案作成・提案・実施を組織的に運営できたか。</p>	A	<p>・今年度同様、生徒の情報全体を共有するようにつとめていきたい。また、生徒指導部・担任・教育相談との連携についても同様である。</p> <p>・日々の校門指導、授業開始時の巡回指導も継続して行っていきたい。そのため全教員の協力を求めたい。</p> <p>・整容指導については、各学期のはじめ学年ごとの統一指導を行うとともに、日ごとの指導を大切にしたい。</p> <p>・情報モラル講習会は、現在の状況に即したテーマをチョイスし、最新の情報をもとに生徒に下ろしたい。とりわけコミュニケーションに焦点を当て、クラスメイト等との交流のあり方を考える契機とする。</p> <p>・非行防止教室も前年度を踏襲し、日頃の生活習慣に目を向けられるような内容にした。</p> <p>・1月実施の「向陽高校をよくする会」で出る意見も考慮したい。</p>		
3	<p>・生徒アンケートの結果から、生徒の行事への期待は高い状態を維持している。コロナ禍で結びつきの弱まりが懸念される今、行事をさらに発展させていくために、諸行事の原案作りにおいて、各生徒が目的や意義を再認識し、生徒会本部とHRとの結びつきを意識した企画づくりを深めていくことを通じて、「参加」から「参画」へと発展させていく工夫を継続していく必要がある。</p> <p>・食堂と生徒間での会議を適宜設け、生徒の要望を反映させる活動を継続できている。生徒アンケート結果の分析をもとに、生活環境の向上に向けた議論を行う中で、主権者意識をよりきこき育てていく必要がある。</p> <p>・部活動は全体的に盛んであるが、わずかながら加入意識の低下が懸念されている。活動の活性化と加入率の向上に向けて、生徒会組織の横のつながりと、環境の整備に取り組んでいく必要がある。</p> <p>・人間向陽高校をよくする会で意見交換を積み重ねる中で自ら行ってきたことを振り返り、その時々課題発見を行うことができていく。そのことが、生徒会活動の在り方を探求することに繋がり、単なる行事の実施ではなく、生徒会活動の質を高めることになっている。また、引き続き、HR討議を踏まえ取組みを全校に広げること、そして主権者意識を育てていくことに繋げていくことが課題である。</p> <p>・修学旅行では、教科横断的に沖縄をテーマに戦争と平和、歴史と文化などに取組み当日の平和学習等に活かすことができた。また、人権学習では、各学年ごとにテーマを設定し、教科を横断しての人権学習を深めることができた。修学旅行の事前学習や人権教育でそれぞれの目的に沿った各教科を横断した取組は、効果が大きいため、引き続き、学年、委員会、教科で連携、協力を大切にしていくことが必要である</p>	<p>生徒一人一人を大切に支援する</p> <p>・適性検査・職業人講話を通して社会性を培い、自己の在り方生き方を考えながら、自己理解と職業意識を育み、進路選択の課題を発見するための動機付けを推進する。また各ガイダンスや職業人講話、上級学校による模擬授業を通して計画的に進路分野を選択させる。</p> <p>・授業を基本とし、向陽ゼミ(進学補習)や模試を実施して学力の向上を図る。自習室は利用方法のルールを見直し、より学習しやすい環境を整え、積極的な活用を促す。推薦受験対策として、小論文や面接練習に積極的に取り組むよう指導を強化する。新たにスタディサプリを取り入れ、進路指導や教科指導に活用し、学習習慣の定着と学力の向上を図る。</p> <p>・「進路だより」や「ホームページ」、「保護者向けの進路ガイダンス」を通して、進路情報を発信していく。また、進路室を整備し、より有効的な利用を促進する。</p>	<p>・生徒が自らの考え、課題を発見、課題解決に向けた探求を進めるよう人間向陽高校をよくする会での意見表明を指導していく。そのために、生徒会本部での事前の論点整理と模範討論を充実させていく。また、生徒要望アンケートに基づきHR討議を進め、取組みを全校へ広げていく。</p> <p>・共通理解を深めると、意見交換の内容について生徒会ニュース、PTA広報、職員会議等で還元する。</p> <p>・主権者教育の一環として人権教育、修学旅行等の事前学習を教科横断的に組み合わせ、修学旅行においては、平和教育や歴史・文化・自然・体験教育等を推進し、事前学習と現地での取組を繋げ、自己の在り方生き方を考えた深い学びを実現する。また、人権教育においては、各学年ごとにテーマを設定し、自己の在り方生き方を探究する。</p>	<p>・人間向陽高校をよくする会での生徒の意見表明がアンケート等生徒での事前の論点整理と模範討論を充実させていく。また、生徒要望アンケートに基づき意見交換の情報がそれぞれに還元されたか。</p> <p>・教科横断的な人権学習、修学旅行事前学習によって自己の在り方生き方を考え、修学旅行においては、現地での取組みが効果的に連携できたか。</p>		<p>・コロナ禍で状況が変わる中でよく対応して生徒会本部を中心に生徒たちがよく参加し、頑張っていることが分かった。本部が主体になり過ぎているという課題は、コロナの関係で経験が伝わらないため、生徒会本部が前に出て頑張っていたのではない。課題を意識して奮んで行くことが大切。</p> <p>・生徒要望アンケート等をもとに、生徒の声を拾いながら協議の場を設け、ひきつづき、学校環境の向上に向けた主権者意識の醸成を図っていくことが求められている。</p> <p>・ひきつづき活動環境の整備に取り組んでいくとともに、部活動のさらなる活性化と加入率の維持向上に向けて、特に年度当初の取組みの工夫と諸行事での横のつながり等を意識した運営が必要である。</p>			
4	<p>・生徒の進路希望は多様である。計画的に進路決定することができるように、進路指導の工夫が必要である。</p> <p>・希望する進路を実現するためには受験に耐えうる教養と学力が不可欠である。また受験環境も変化しており、生徒の実状に応じた対策が必要である。</p> <p>・ネット社会の発展により進路情報を容易に入手できるようになったが、不適切な情報も多く含まれている。適切な情報を生徒・保護者・教職員で共有していく必要がある。</p>	<p>保護者参加による協力体制の確立</p> <p>・過去の資料を参考にしたり、電話・メール・LINEなど様々な連絡ツールを利用して、教員と保護者の連絡が取りやすい状態にする。</p> <p>・生徒理解を深め、学校の実情に基づいた取組みができるように、本部、各委員会の計画立案に関わっていく。</p>	<p>・生徒が自分の将来について考え、職業・上級学校についての必要な知識を深め、進路選択の動機付けを促すことができたか。</p> <p>・生徒が自主的・主体的に学習に取り組む、受験に必要な学力を身につけるように指導することに寄与することができたか。</p> <p>・適切な進路情報を生徒・保護者・教職員と共有することができたか。</p>	<p>・コロナ禍ではあるものの、過去の資料を参考にしたり、様々な連絡ツールを利用し、例年に近い形でできたものが多かった。</p> <p>・委員会担当の教員が保護者と綿密に連絡を取り合い、夏休みの懇話会を進路講演会に変更したり、花植えを卒業式前にも行うなど、より良い行事運営や学校環境の維持に努めた。</p>	A	<p>・コロナ禍により、訪問型学校説明会の実施が難しくなっている状況がある中で、より効果的な進路行事を工夫・検討していく必要がある。進学フェアの業者仲介については慎重な検討が必要である。</p> <p>・向陽ゼミは、通年制に変えたが、受講状態は学期制だった昨年とほぼ変わらない印象である。今後もより多くの生徒が参加するよう、先生方に協力していただき開講していく予定である。本校教員による小論文指導については、特定の教科に負担の偏りが出ないように、割り振り方法の検討が必要である。スタディサプリ到達テストのレベル選択とスタディサプリの活用実態およびその学習効果の観察は、今後2年間かけて行っていく。</p>			
5	<p>・Covid-19蔓延に対する政府・県教委からの通達により昨年度も多くの行事が中止となったため、2・3年生の保護者にとって例年の行事を経験することが出来ず、今年度の運営がスムーズに行えるかが課題である。</p> <p>・役員を積極的に引き受けて下さる保護者が少ないので、保護者の負担を減らしつつ効果的なPTA活動を行うことが課題である。</p>	<p>保護者参加による協力体制の確立</p> <p>・過去の資料を参考にしたり、電話・メール・LINEなど様々な連絡ツールを利用して、教員と保護者の連絡が取りやすい状態にする。</p> <p>・生徒理解を深め、学校の実情に基づいた取組みができるように、本部、各委員会の計画立案に関わっていく。</p>	<p>・本部、各委員会の計画立案に対して、各担当者が丁寧に関わる事ができたか。</p> <p>・満足感の得られる活動のための助言、援助を行えたか。</p>	<p>・コロナ禍ではあるものの、過去の資料を参考にしたり、様々な連絡ツールを利用し、例年に近い形でできたものが多かった。</p> <p>・委員会担当の教員が保護者と綿密に連絡を取り合い、夏休みの懇話会を進路講演会に変更したり、花植えを卒業式前にも行うなど、より良い行事運営や学校環境の維持に努めた。</p>	A	<p>来年度は例年の形を経験した保護者の方がいなくなるので、今年度の反省を次年度に確実に引き継ぐことが重要である。</p> <p>「例年通り」でなく、常にどう改善しているか、保護者の方と話し合うことが大切である。</p>			